

令和3年第9回 三朝町教育委員会 定例会 議事録

開 会 日	令和3年9月28日（火曜日）
開 催 場 所	三朝町役場2階 第2会議室
出 席 者	西田寛司教育長 塩谷俊樹委員、石田仁樹委員、加藤るみこ委員、村岡麻梨委員
欠 席 者	な し
説明等の出席者	山中教育総務課長、山本社会教育課長、朝倉図書館長、小谷指導主事、福田教育総務係長
報 告 事 項	(1) 教育総務課事業について (2) 三朝小学校施設整備について (3) 令和3年度後期三朝町教育委員会学校訪問日程について (4) 全国学力・学習状況調査結果について【別冊】 (5) 社会教育課事業について (6) 図書館事業について
議 事	な し
協 議 事 項	な し
そ の 他	(1) 三朝町コミュニティ・スクール準備委員会の設置について (2) 鳥取県市町村教育委員会研究協議会 令和3年理事会及び定期総会の書面決議報告について (3) 日本遺産の再認定に係る状況について (4) 小学校外国語指導助手について

会 議 の 内 容

- 1 開 会
教育長 午後1時25分
令和3年第9回定例会を開会します。
- 2 前回議事録
の承認 前回の議事録につきましては、石田委員と村岡委員に承認をいただいております。
- 3 議事録署名委員
の指名 本日の議事録署名委員は、村岡委員と塩谷委員を指名いたします。
- 4 報告事項
教育長 9月2日に市町村教育委員会オンライン協議会というのがあって、それに参加しました。今までですと、文科省が主催する会というのが現地に集まるということだったので、なかなか参加したことがなかったわけですけど、そういう意味ではオンラインでいろいろな情報が聞けたというのはいいことだったなという風に思いました。

それから、4日には学校支援ボランティアの人と教育委員会事務局と学校とで運動会用の草刈りを中学校でさせてもらいました。6時30分からで、2時間ぐらいしたのですかね、そんな感じでした。

そして、11日に運動会で、こちらは来賓といいますか、案内が私と町長だけの参加となっております。午前中で終了しました。

それから、さかのぼりますけど9月2日には給食のメニューの中に、フランスのメニューが2つ入ったフランス給食の日があって、それにご招待いただいたので試食に行きました。特に、ポテトにバターやチーズが入ったいかにもフランスっぽいかと思うような、それが大変おいしかったです。

それから9月7日に、ここにはないですけど新たなALT、ホーマン・ネイサンというアメリカ人とリモート会議で、引継ぎといひましようか三朝の様子を今の中学校のALTと、CIRと、それから事務局と、私はあいさつだけ、日本語であいさつをさせていただきました。

あとはですね、今後の予定ですけど、10月になりますと7日8日に東京にまた行ってこようと思っております。というのは、県の町村教育長会の会長になったものですから、理事会が行われますので、そちらに行ってまた1週間ほど隔離されて執務したいと思います。

10月の21、22日に県の町村教育長会が若桜町であります。とりあえず1泊2日の予定で計画がされているところです。

それから、26日になりますとユニセフキャンペーン、予定にもありますけどそちらに回ります。

それから最後に、10月28日に県の教育行政懇談会、こちらの方でさっき言いました町村の教育長会で、学校とか社会教育とか教育に関する意見要望書を事前に県教委に渡して、その回答をもらいながら今後の行政施策について県の考えを聞く、そのような懇談会です。それに参加するようにしております。

一応それが報告と、これからの日程ですが、今日も後のほうで報告がありますけど、全国学力状況調査がありました。平均点で比較しますから良好な成績だったように思います。それとは別に鳥取県が今年から始めた鳥取県の学力調査というものもありまして、同じようなものを2つするというような理解も一方ではある中、おそらく国の学力調査と県の学力調査の違いは、教員の指導の仕方、あるいは家庭学習の仕方、それによってどう伸びが高くなるか、伸びがどうであったか、平均点で比較するのではなく一人ひとりの伸びがどのような授業のあり方、どのような家庭環境によって伸びるかというようなことを明らかにして、それを次の学習活動なり指導に使えたらという思いだそうです。その辺がうまくいくかどうかというのが教育長さん方の関心事でありますし、それから以前、この鳥取県の学力調査はあったものです。ところが5年ぐらいで止めてしまって、何のためにしたんだろうかというような過去にそういう反省があって、皆さんそのことを知ってらっしゃる方は二の舞にならないかというような話をしているようなところです。これにつ

いても 28 日の教育行政懇談会の話題として出ると思っております。その内容についてもまたご報告させていただけたらと思います。

それから新型コロナ対策ですけど、小中学校ニアミスはあったわけですけど、学校の中に入っていないということで先生方には大変頑張っていただいておりますし、保護者の皆さんも自主的に欠席するような、ですから出席停止の扱いとか、そういうのになるわけですけど、その届出の数は結構多いです。特に中学生のワクチン接種が行われてますから、翌日休むという子が結構多くて、正確ではないですけど聞く話だと半分ぐらいは 1 回目の接種をしているように担当課から聞いております。

事務局

(1) 教育総務課事業について

(資料により報告)

10 月 4 日、月曜日の 1 時半から、21 世紀を生き抜く中学生講演会ということで、岡山大学惑星物質研究所の中村特任教授による講演を開催いたします。中学校 1 年生から 3 年生までと、小学校 5 年生、6 年生が対象です。大ホールは 400 人が定員なんですけど、半分程度の 200 人を大ホールに入ってもらって、小学校 6 年生と中学校 1 年生から 3 年生までが大ホール、5 年生につきましては大会議室でライブ配信を計画しております。もしよろしければ、教育委員さん方も来ていただけたらと思っております。

10 月 26 日のユニセフ・キャラバンにつきましても、もし教育委員さんで関心のある方は来ていただけたらと思います。

(2) 三朝小学校施設整備について

(資料により報告)

9 月 15 日の全員協議会資料で、この内容について報告をさせていただいております。内容については、すでに報告をさせていただいたものをまとめたものです。

教育長

今の小学校施設整備については、議員さんにまとめたものを、時々報告をしているんですけど、まとめたものが欲しいと言われたからこういうものを作って全員協議会で報告させていただきました。それで、その報告についての報告ということで、教育委員さんにも、こういうものが議員さんのところに配られているということをご承知いただきたいということです。

ここまでで何か、ご質問なりご意見がありましたらお願いしたいと思いますが。

教育委員

10 月 26 日のユニセフ・キャラバンというのは、どういうキャラバンなのか。

事務局

日本ユニセフ協会が各都道府県を回って、ユニセフの活動についての周知を図っている、啓発しているというような活動なんですけど、実は、昨年度三朝小中学校で実施する予定だったんですが、コロナの影響で実施が不可能ということになりまして、1 年延期されてそのまま今年度も小学校・中学校ということで、最初に打診があった時にぜひやらせていただきたいということで手を挙げさせていただいて行います。内容としましては、小中学校それ

それぞれ対象学年を決めていただいて、先ほどお話したようにユニセフの活動についての動画を視聴したり、活動についてクイズを出してそれに答えたりというような形で、ユニセフ活動の理解を深めるというのが主旨になっております。それが午前中小学校、午後中学校であると。ただこの状況ですので、日本ユニセフ協会の方の来校は難しいということで、鳥取県ユニセフ協会の代表の方が来校されて、日本ユニセフ協会の方々についてはオンラインでの参加ということで話を聞いております。実は今日、このあと3時30分から、小中学校それぞれで県教委と打ち合わせする予定になっておりますので、それが終わったらもう少し詳しい話がわかると思っております。

教育委員

ありがとうございます。

教育長

来られる？当初の予定では25日に知事表敬して、その後うちの文化ホールの…大会議室だったかな。

事務局

大会議室です。

教育長

で、全県の希望する先生方が来られて、そこでもユニセフの説明が前日にあって、26日に子ども向けということになるそうですけど、その辺りも詰めがこれからですね。

他はいかがでしょうか。

教育委員

ちょっとスケジュール的なところを。聞いていたかも知れないです、もう一回ちょっと確認なのですが、10月12、13日で、町村教育委員会研究協議会というのが松山市の予定、これはもうなくなったということですね。

事務局

はい、なしです。

教育委員

わかりました。

教育長

他はいかがでしょうか。

各教育委員

(意見等なし)

事務局

(3) 令和3年度後期三朝町教育委員会学校訪問日程について

(資料により報告)

教育長

ちょっとお願いしたいことがございまして、前回、前期の分で行った時にね、皆さん全員入ると後ろの方がすごく密になるから、例えば同時に半分ずつ見て、隣のクラスと入れ替わるとか、そういう工夫ができたかなということをお願いしていますので、ちょっと違うことになるかも知れないです。それと、要らないことですけど、局の指導主事も係長も三朝町出身の方でして、よく知っておられるから、さらに掘り下げた指導をしていただけるかなという風に期待をしているところです。

事務局

(4) 全国学力・学習状況調査結果について

(資料により報告)

とっとり学調についてですが、実は同時期に調査は終わっているのですが、分析の手法についての研修会が9月中旬にあったばかりですので、現在集計中です。次回、10月の定例会で報告させていただこうと思いますのでよろしくをお願いします。

教育長

学校訪問と全国学力状況調査について、何かご質問があればお願いしたい

と思います。

教育委員

3 ページなんですけど、「3 じ」の「じすう」の「じ」はこの「時」でいいですか。

事務局

ごめんなさい、文字の「字」です。失礼しました。

教育委員

それはいいですけど、その上に、確かに非常に読む力というのが著しく悪いなというのが数字上見るとそうなので、ここに書いてある「履修の学習の中で丁寧に指示したり、一つひとつ確認しながら負荷をかけないような授業を展開することが逆に児童の読解力と技術力の育成を阻害しているといえる」というのは、私は専門的にはよくわかりませんが、「丁寧に指示を出したり確認をしながらしているのが結果としてこうなっちゃってるからいけない」と言われるのはそうなのかもしれないですけども、丁寧に指示を出したり確認をするのがまるでいけないのかなというのはちょっと。さっきも言ったように専門的でないので結果としてそうなるからそうなのかもしれないですけど、丁寧にしたり、確認をするというのは、私みたいな素人から考えると当然そうしていただきたいなという風にも考えるんですけども、でもやっぱりそう言われてるとそうなんですかね。

事務局

この文章が丁寧ではなくて。丁寧な指示や確認というのはもちろん大事ななんです。で、そのする場所ということですね。学習過程の中、小学校 45 分あったら 45 分全てを丁寧に丁寧に一つずつ確認していってしまうと、子どもたちは先生が答えを用意してくれるとか、先生が回答の仕方を教えてくれるという、待ちの授業になってしまうという。で、最初もちろん小学校・中学校一緒だと思いますが、学習課題をつかむという、要するに目当てをガチっと私は 45 分これをするんだという、そのつかみ取るところは丁寧にする必要があります。でないと子どもたちは、一体僕は 45 分何をすればいいですかになってしまうので、そこについては丁寧にしながら、やはり自分で学んでいく、自力解決していく段階になってきたら、ある程度負荷をかけないと子どもたちがぐ〜っと一生懸命考える、あの時間があって初めて力がつくのであって、そこをなしに、「この辺り読んでみると何かこういうヒントがあるよ」とかってあまりにも丁寧にやってしまうと、子どもたちは「先生がどうせヒントを出してくれるから」とか、そういう待ちの姿勢になってしまうので、その丁寧にする、一つひとつ確認する場面と、そうではない場面をやはり明確にしていくということの説明でした。ごめんなさい、私の記述が丁寧ではなかったです。

教育長

私も思うことを言わせてもらおうと、短期的には今、1 コマの授業の中では事務局が言われたようなことだと思います。で、教育委員さんが言われるように、丁寧に、しっかりと基礎学力といいますか、知識を覚えこむというのは大切なんですけど、そこから応用の話になってきて、応用をうまくできてないという風に僕は理解しております。というのが、三角形の方程式、公式は覚えるんですよ、面積を出す。それが 2 個ひつついたときにどうやって出すかわからないということがあるようです。要は倍になっているのに、そ

の倍に気付かない。直角三角形1個だったらいくらでも出せるけど、という話なんです。で、直角がない三角形だったら、私らだったら補助線引いて直角作ってとか、そういうのを習いましたね。そこができないそうなんです。それが中部の傾向でもあるという話でした。中部の傾向としては、どこも基礎学力のところは東部西部に比べたらはるかに落ち着いているものですから。学校自身が最近落ち着いているそうなんですけど。で、基礎学力はいいんだけど、発展的な問題に向かうところがちょっと弱いかな。その辺が、読む力が足りないし、思考、表現のところが足りないということになってるのかなと。もう一つ、中3の子の小6の時の結果をストレートに比べたいんですけど、実は設問の仕方が変わっちゃってましてね、過去はA問題が基礎でB問題が応用といいましょうか、単純な言い方をしちゃいますけど。そういう構成ですけど、今は結果のような構成になってますから、単純に比べられないんですけど、そんなようなところが見えてきているということです。短期的には事務局が言われた1つの授業の中でどう組み立てるかという先生の考え方と、それから単元でどう考えるかというようなことも、発展的な問題をどれだけ子どもに与えるかというのも1つの課題になるんじゃないかなと思います。

他にはどうでしょうか。

教育委員

さっき言われた丁寧に教えるということなんですけれども、前からずっと感じてたんですけど、先生方が教科書を教える、本当は教科書を教えるんだったら、日本全国同じ教科書でないといけないんですけど、日本全国同じ教科書でないというところに意味があって、教科書「を」教えるんじゃなくて教科書「で」教えるというところを、大学でどのように勉強してこられたかわからないですけど、そのところが抜け落ちちゃってるなという気がします。で、結局子どもにも教える中で、何が本当に大事なのかというのは指導要領とかにも書いてあるわけですから、そのことをなしでバーっとやってしまわれる、教科書の字面、絵面を教えるということになっちゃってるので、そこら辺のところも問題があるかな。板書を見れば一発で教材研究されるのかどうかということもわかりますし、そういうところで、ずいぶん昔にとある先生が文科で指導しておられたですけど、教科書で教えるのかというのがあって、そのところを私らも大学のところでいろいろちょっと議論したりもしてきたんですけど、そういうことをやっぱり、もう少し先生方も丁寧にされるべきだし、「わかる授業」ってよく文科が言うんですけど、わかりやすく教え込むんじゃなくて、自分たちがわかったと、喜んでわかったと言える授業、それが本当はわかりやすい授業だと私は思ってやってきました。で、琴の浦でもそうなんですけど、あの子たちはこういう言い方をしちゃいけないんですけど、倉養の子たちと違って、結局は社会に出ればいろいろな中でもまれてやっていくわけですよ。いろんな仕事をしていくんですけど、わからないことをわからないと言えないということが、やっぱりネックになってくると思うんです。だけどおしなべて養護学校の先生方はわかりや

すく丁寧にかみ砕いて教えてしまわれるんです。それが一番大事なんじゃなくて、私は何がわかって何がわからないのかということが自分でわからない。中学校でも小学校でもそうなんですけど、授業中に目が死んでいるというのはそこなんです。自分がこのことについて何がわかってるかわかってないのかわからない。だから与えられるものをただノートに書いて写して帰る。で家に帰ったらわからない。という形になっているので、積み上がっていかないというのがあると思いますし、根本的なことを言ったらそこなんですけど、あまりにも丁寧すぎちゃって、そういう意味です。丁寧すぎるというのは。だからわからないことは何ということが、授業の中で問いかけてない。自分が何が知りたいのかということがあれだし、食いつかせるための手法というものを持ってないというのが、すごく残念だなというのが授業を見ていて思います。だから最初にポーンと問題を与えて、自分がどこがわかってるのかわかってないのか線を引かせて、そこからスタートすればいいのを、ご丁寧にやってしまうるので、お客さんでそのまま過ごせば「よかったよかった、次は大好きな体育があるからこの時間はこうやっていけばいいんだな」っていう授業になっちゃったりというのがあるんじゃないかなと思って、そこら辺のところが授業を見るときにポイントにさせてもらってるんですけど、そこら辺のところを教員がはき違えちゃいけないなということと、やっぱり「わかった。今日学校に来てよかった」というのがないと、次につながってこないかな。算数でも1つでも昨日よりわからないことがわかった、ひょっとしたら好きになってるかもしれない。そのところのきっかけを作るのが私たち教員の仕事でもあるわけだし、そこら辺のところも教育委員会も丁寧に見ていかないといけないかなというのは感じました。去年ちょっと見させてもらって。だからそこのはき違えを大人がしちゃったらいけないのかなという気がします。すいません、ちょっとアバウトな言い方で。

それから、さっき言われた書くことの指導なんかも、国語だけで済むんじゃないかっていろんなところでしておられると思うんですけど、例えば日記を書かせますよね、今はどうだか知らないですけど。何十年も前は日記というのを書かせてました。で、私は家に帰って日記を書かせませんでした。なぜかっていうと、一文だけしか書いてこないから。だけど日記ってすごく大事なことで、その中で力をつけさせたいなと思うので、給食を食べた人から日記を書かせてました。その日あったことを。あるいはちょっとだらけてきたなと思ったら、例えば「手」という題を1週間与えて、自分の手でもいいし、いろんなことを書かせるんですけど、そうすると、家族の手を調べたり、おじいちゃんの手はしわがあるとか、なんでこんなに骨が太いんだろうとかというようなことを書いてきたりするので、さっきのあれとは違うんですけど1週間同じテーマで物事を見させて書くとか、そういうのをしたことがありました。そこら辺のところ、日々の生活の中で求めていかないと、そういう力ってアップしないので、教員との語らいの中でも、そこら辺のところをきちんと話すことで指導もできると思いますので、そこをおろそかにせずに、

一つひとつのことに丁寧にやっていけば、ちょっと効果が上がってくるんじゃないかなという気がします。授業だけが教える場ではないということを意識していけばいいのかなと気もしますけど。

教育長

学校訪問の時に、その視点を持って、今おっしゃられたような視点を持って、問いかけとかそういうようなことが上手にしておられるかどうかというのを感じてもらったら。ただ時間が短いですからね、うまくそのタイミングに合うかどうか、その先生が本当に知っているか知っていないかわからないところもありますけど、気付かれたらそういうのは褒める材料にしていたらなと思います。

教育委員

いつも板書がいいと書いているのはそのところで、あまりにもなおざりになっちゃってるな板書が、というのがあって、やっぱりそこで子どもたちも学び方を学んでいくわけですし、何をノートに書けばいいのかという指導も板書一つでできるんですね。大事なところ。例えば問題を書いて、2つ相異なる考え方をしたものを出して行って、こっちとこっちに書いて行って、それを発表させる。で、どこが違うんだろうかということを言いながら今日学ばせたいところに持って行って、一番真ん中のところに今日の学習のポイントを書いてもらうです。子どもたちはいろんなことを、こっちの考え方、こっちの考え方ってあるけど、最終的には「ああ、ここの所が一番大事なんだ」ということがわかって、これをノートに書けばいい。そうすると人の話を聞くときにノートを書かなくてもいいので、その時にしっかり人の方におへそを向けて聞く。とにかくへそを向けて聞けと言ってました。何でもかという、そっちに向いて、メモを取ったりするなということで、しっかり聞いてそれを返していくということをしていく。昔はそういうことをすごく大切にしてたんですけど、最近の授業を見るとなんだかなというのがあって、まあいろんな流行りもあるんでしょうし、iPadとかああいうのを使ってしておられるので、昔のことを言ったら通じないなと思って黙ってたんですけど、やっぱりそういうところの板書の方法にしても、ノートの取り方一つにしても、やっぱり年配の教員がいろいろ若い人にも教えていく、そういうことが最近少ないのではないかなと思います。すいません、批判的な感じですけど、でもおしなべて皆さん頑張っておられると思うんですけど、頑張りが違うなと思うところがあって、発言させてもらいました。

教育委員

さっき聞いてなかったかも知れませんが、中学校の英語はどうだったのか、何で英語は出ていないのか。

事務局

一番後ろをご覧ください。10 ページになります。経年変化ということで書いているんですが、令和2年度、令和3年度については英語は実施がありません。来年度、令和4年度に実施の予定だったと思います。

教育長

他はいかがでしょうか。

各教育委員

(意見等なし)

事務局

(5) 社会教育課事業について

(資料により報告)

事務局

(6) 図書館事業について

(資料により報告)

会場としての提供ですけれども、24日の日曜日に、人権相談ということで会場提供のみする予定としております。

教育長

誰がしなるですか。人権相談は。

事務局

正式名称は人権相談員さんですかね。名称は、個人名を出していいですか。

教育長

いいですよ。

事務局

安本紀子さんです。安本さんが相談されます。

教育長

法務局の指定を受けてらっしゃる人権相談員になっておられますから。毎月だったですかね、文化ホールとか社会福祉協議会でされていたのを、選挙の関係かな。

事務局

内容については…。

教育長

多分、選挙の関係か何かでこっちを使われるとかじゃないかな。想像ですけど。まあわかりました。

それでは、社会教育課と図書館について何かありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

各教育委員

(意見等なし)

5 議 事

教育長

本日の議事はありません。

6 協議事項

教育長

本日の協議事項はありません。

7 その他

事務局

(1) 三朝町コミュニティ・スクール準備委員会の設置について

来年設置についてということですが、準備委員会の状況についてご報告をさせていただきます。9月22日に2回目のコミュニティ・スクールの準備委員会を開催しました。この中では学校運営協議会について話をしておりますが、まず運営協議会の方向性として4年の4月にスタートを切るところの中で、ただ4月といっても準備期間は当然少ないような状況ですので、4月にスタートはするけれども、1年間はしっかり熟議をしながら運営協議会のあり方、コミュニティ・スクールのあり方を検討していきましょうということで確認をしております。現在ある学校支援委員会というものが、発展的にといいますか、学校運営協議会に移行していくというようなことでイメージを共有させていただいております。あとは協議会のあり方について、小中学校別々にするのか、それとも小中学校として1つにするのかということも議論をしました。いろいろな意見があって、経営方針は学校別であるという観点は当然ある中で、ただ委員は重複する可能性もあるので1つでもいいのではないかという意見もあつたりとかしております。そういったところ

も含めてもう少し継続して考えていくというところで先回の会は終わっております。その他、委員の構成だったり人数だったり任期だったりというところを確認をしたところでございます。次は 11 月 2 日に会を開催するとしております。

教育長 なら解散は、ちょっとよくわからないんだけど説明が。コミュニティ・スクール準備委員会は 3 月いっぱい解散しなるといえることですか。

事務局 はい。

教育長 だけど、1 年かけて話をするって言いなつたので。そこがちょっとよくわからなくて。

事務局 準備委員会は 3 月までで、運営協議会を 4 月につくりますので、そこからは運営協議会で話をしていくという風になります。

教育長 なら、運営協議会にお任せするのか。

事務局 はい。

教育長 今のコミュニティ・スクール準備委員会の状況の報告ですけれども、議論の中身も説明があったわけですけど、何かありますでしょうか。

各教育委員 （意見等なし）

教育長 なら次回はかいつまんで、どういうことが決まったかとか、そういうのをまとめていただいた方がいいのかなと思います。

事務局 （2）鳥取県市町村教育委員会研究協議会 令和 3 年理事会及び定期総会の書面決議報告について

（資料により説明）

教育長 全部、可決だったと思います。同意ということで。特にはないですね。

各教育委員 （意見等なし）

事務局 （3）日本遺産の再認定に係る状況について

（資料により説明）

教育長 何か質問はありますでしょうか。

 ちょっと確認したいけど、再審査に当たって何が課題だったか、それをどう解決する計画書を作ったかを言っていたかしないと、組織の話だけされても。

事務局 計画については大きく分けて、組織整備の関係と、戦略立案と、人材育成と、環境整備、環境等事業化、普及啓発…。

教育長 いやいや、ちょっと。指摘されたところの項目があるでしょ。だって、良い所は別にいいんでしょ。同じままで。

事務局 指摘された点は、先回もお伝えしておりますが、地域プロデューサーの確保であったり、民間事業者との連携強化、それから抜本的な体制の強化ということがありましたので、地域プロデューサーは今後、確保していかなければなりませんけれども、民間事業者との連携強化というところは例えば、DMO とかも入ってもらって…。

教育長 だから、その民間業者と協力してやるというのが、活かす会として立ち上げましたというところで。

事務局 はい。

教育長 それで解決しようとしていると。で、プロデューサーは今後の課題で残ってしまうという話だよね。

事務局 はい。

教育長 そこの話の方が大切だと思います。

事務局 すみません。

 そういったところで、組織体制のところをかかっっていこうと…。

教育長 それで、計画はもう出してあるんだよね。

事務局 計画はまだ…。

教育長 一旦は聞き取りするとか。出してない？

事務局 審査に向けて、どのように改善するかという点について、例えば今の、地域DMOを取り入れるとか…。

教育長 こんなのを作ったんですけど、どうでしょうか？というのは、してない？

事務局 それは、指摘事項に対する回答ということで、委員さんに一覧表は出したというところです。

教育長 わかりますか？

 委員さんというのは、評価される委員さんのことを言っているのだと思います。そこの意見を聞いて、現地視察を受けて、また直すわけか？

事務局 最終的に出す計画は、直す余地があるのではないかと考えています。

教育長 余地というか、直さんといけんのだと思うけれども。計画は委員さんには届いているのか。

事務局 そのものは届いていません。提出ということなので。提出する時が提出ということですので。計画の原案のお示しはしておりません。

教育長 それまでは送ってくると言われていたのですか。

事務局 という風に理解しています。そういう直し方はしないと思っています。

教育長 何かありますでしょうか。

教育委員 日本遺産地域プロデューサーというのは、どういう人を想像しているのか。

事務局 よく、外部からというようなこともあったりしますが、やはり三朝町のことを知っておられる方でないといけないと思いますし、なので、町の内部というか、その中からという風な…。

教育長 では、候補は誰ですか？どんな人ですか？町民には数限りがあるから。想定しているのではないか。

事務局 ただ、具体的には、すみません、申し上げられません。

教育委員 NCNでこれに関する話題が出ていて、その時に丸い顔の男の方が、何かプロデューサーか何か…。

事務局 会長さんです。足立さん。

教育委員 会長さんですか。何だかしておられて…。

事務局 観光協会の会長さんです。

教育委員 何だか、動いておられるんだなというのを、NCNで見たんですけど。ではその方はプロデューサーというわけではないんですね。

事務局 はい、そういうわけでは。

教育委員 あの方は、三朝町の方なんですか。何だかちょっと違っていたような…。

教育委員 橋津屋さんです。

教育長 橋津屋の社長です。

教育委員 何かちょっと違ったニュアンスで語っておられた方があったですけど、なら私が勘違いしていたのかな。町外の方が来て、いいアドバイスをくださっているのかなと思って見ていたものですから。

教育長 最後にコメントされたのは橋津屋さんです。

教育委員 動かれているんだなと思いながらテレビを見させてもらっていました。

教育委員 現地調査というのはどういう。もう三朝温泉から三徳山まで見に行かれるんですか。

事務局 はい。三朝温泉と三徳山の現地の様子を見に来られるということです。

教育長 どこに案内しようとしているのかというのもあるでしょ。それを言えればいいじゃないですか。

事務局 すみません。株湯とか、それから三徳山の正善院とか境内とかというような所です。

教育委員 やはりどこかつながりやを、温泉地と三徳山のつながりが何だかわかるようなものがなければいけないんですかね。

教育長 やっぱりストーリーを象徴するような所に、案内する方もそれを意識しないと。単にお寺の建物が古くて立派ですという話じゃないですからね。

教育委員 日程的なことはあまり言えないんですけど、ほとんど日にちがながいんですね。

事務局 はい。見ていただくルートは現在、案としては出させていただいています。

教育長 観光課で作ってるんでしょ。うちで作ってる？

事務局 いや、観光課です。

教育長 観光交流課で作っているから、詳しくは知らないという話か、そうすると。

事務局 いや、日程は出していますので、あとは向こうから、ここが見たいんだけどということがもしあれば、追加はしていくことになると思います。

教育長 よろしいですか。

教育委員 はい。

教育長 他はいかがでしょう。

教育委員 カジカガエルのことなんかは、広がっちゃって違うんですか、やっぱり。あれは、温泉のことを広めたりという特別な世界かなと思うんですけど、ちょっと違う？

事務局 カジカガエル…。

教育委員 取り組みとか、いろんなところで地域おこしにつながると思うんですけどね、観光地の。それは違う？

事務局 カジカガエルは温泉の環境、音とかそういうことで関係あると思いますけど、今回見ていただくルートの中には…。

教育委員 というか、活動の中には入らないですか、活かすという、三朝温泉を活かすということには入らないですか。

教育委員

三朝温泉が発展することに関しては、三徳山とのつながりがどんどんできていくことだと思う。だから、観光の廃れている三徳山に参拝される人も少なくなっているということになってくると、つながりが途切れるというか、日本遺産としての価値がないのではないかということになると思う。観光地にたくさん観光する人が来て、三徳山にどんどん登ってくだされば、いくらでも話はつなげられると思うんだけど、そこができてないのではないですか。

事務局

観光客に来ていただいて…。

教育長

僕から言いますとね、外国人の観光客は増えているんです。去年だけ下降で、それまではずっと右肩上がり、2万人ぐらいだったんですか、来ておられるです。だけど国内観光客が地震からガタンと減って、コロナでまた減って、35万人ぐらいで止まっている。だけど今年の前半だけだと、外国人が1,000なんぼで、修学旅行があるから維持しているという感じで。

教育委員

テレビでしかわからないんですけど、外国人のガイドさんがいろんなことを発信しておられて、外国人が多いという印象でテレビを見たんですけどね。そこら辺の発信の仕方みたいなのも、学ぶところがいっぱいあるんだろうなと思ったり。そういう方の力を借りて、もっとグローバルな感覚でいろんな意見を聞かれたらいいのかなと。すごく熱を持ってガイドをしておられたのがテレビに出ていましたけど、そこら辺の力も借りていくと、私たちが見落としているようなところも、いいヒントをもらえたりするのかなという気がしますけれども。やっぱり発信というのがないと、待っていても誰も来ませんから、そこら辺のノウハウをいただくのも手かなと。

教育長

発信、発信ってみんなが言われてるんですけども、実は指摘されている視点は発信じゃないんです。日本遺産を経験できる、体験できるアクティビティというか、体験プログラムがあまりにも少ないという、そこなんです。

教育委員

だからそれを作ってそれを発信していけばいいんですよ。

教育委員

できていないから。

教育長

それを作っていないから、発信するものがないんです。だけど、上手に発信しているから、外国人は来ているんです。

教育委員

その方に、そういうものをどうやって組織していけばいいとか、どういうものだったら人が食いつくかみたいなのところの視点も…。

教育長

市場調査みたいなことを、マーケティングをしないといけないから観光サイドでマーケティングをしようかという…。

教育委員

そういうことも含めてそういう方にちょこちょこ聞くということも、大々的なことをするだけじゃなくて、使える人をちょこちょこ使ってそういうアドバイスをもらうってこともしていくべきじゃないかなという考え方です。一般の人に。

教育長

ですからそれが、観光サイドに特化した活かす会でされることなんだろうという理解をしています。

教育委員

とにかく使えるものを使って、使える人を使ってやっていくということが大事なんじゃないかと思います。

教育長

日本遺産も、麒麟獅子とか北前船とか、大山と連携をとったり、他県と連携をとって、回れるようなイメージもここら辺で作っていただいて、そういうことで倉吉と連動してもいいと思いますし。もう少しですから頑張ってください。

教育委員

どこで話したか忘れてしまいましたけど、本当に、大阪から来た人は、三徳山に登って「こんな素晴らしい所はない」と言って感動されて帰られるんですよ。その声がやっぱり、広まっていけないんですね。これが広まれば本当に、地元の人は再発見するだろうし、今言われているように情報発信とかね、なってくるだろうし。本当に素晴らしいものなので、頑張ってくださいと他人事ではないんですけれども、私もやらなければならないと思います。ぜひ、これを日本遺産として残していけないといけないと思います。

教育長

今の教育委員さんの発言を受けてね、思うのは、三朝の人の意見を聞いていてもわからないということ。外の人の意見をどれだけ三朝の中に取り入れてやるかということ。

教育委員

それが大きいですね。

教育長

それが大きいと思います。ならまあ、頑張ってください。

事務局

(4) 小学校教育外国語指導助手について

(資料により説明)

教育長

先にリモート会議でちょっと話をしました。まともな私が普通にあいさつをしてしまったのは聞き取れないのですが、「こんにちは」とか片言の会話はできますから。わからないところはわからないって言いなるとし、日本語で。それで人当たりもいいから、すぐに慣れなるとはならないかなと思ってます。ただ、三朝に来られてから1週間、健康状態の観察期間を設けて勤務してもらおうと。その間、こっちでの生活、アパートの隅に誰かうちの職員一人がついて、一緒に1週間は動けないというわけですね。そういう、変な言い方ですけど犠牲になってもらう人が一人いるような感じになっちゃうんです。

教育委員

どこにも行けなくなっちゃうんですか？買い物にも行けない？

教育長

買い物にはどうにか手を使って、例えば事務局がついているとしましょう。事務局はずっとセットだけど、私とかが事務局の命令によって、いないに物を買に行って玄関まで届けるとか、そんな様なことかなって、単純な言い方ですけど、そうではないにしても、そのようなことをしなければいけないかなって。具体的には教育総務課で詰めてもらってしたいと思いますし、その間、三朝町を案内してもいいかも知れませんし。

教育委員

以前、中学校のALTさんでしたっけ、最初の契約でこれはできない、あれはできないって話があったように。なかったでしたっけ？

教育長

そういうことがあります。

教育委員

ありましたよね。今回、そういうこと、この職務の中には全て、大体こうしてほしいなというものは入っているわけですか。入っていないから、本当はこれしてほしいんだけど、できないわっていうことにはならないですかね。

事務局

もっと前は…。

教育長 契約の時に、一言でも入っていれば、こういう意味をする言葉だったと使ってますということを理解してもらえれば。だから来た時に契約書の中の理解の仕方をお互いが話しておけば。

教育委員 問題がなければ特に。

教育長 特に、地域における国際交流活動なんて言われたらとてつもなく広いから、その理解の仕方はちょっと説明しておかないと。突然と起こることもあるけど、その時はよろしくねってことで、うんと言ってくれればそれでいいですし。

事務局 これは公表するものか。回収した方がいいのかな。

教育長 持っておられてもいいですけど、個人情報につきましては…。

教育長 ということで、もし落とす自信がある方は返していただけたらと思います。よろしいでしょうか。

各教育委員 (意見等なし)

教育長 準備したものは以上ですが、皆さんの方から何かありましたら、お願いしたいと思いますが。

教育委員 図書館をちょこちょこ活用させていただいて、前に私が教員だったころに図書館教育を担当させてもらっていた時があって、その時に町の図書館と、中学生・小学生が協力し合って広告ですよ、本の紹介を一言でしているようなのを、国語の教科書の中でもそういうところがあったりして、それを連携して町民の方にいろいろ知ってもらいたいな取り組みとか、あるいは図書館にあるものを上級生が下級生に教えていく、かわいいポップみたいなものを作ってやっていくという取り組みがあったりしてたと思うんですけど、今、学校図書館と町の図書館の連携とか、あるいは学校の中での図書館教育の役割というか、どこら辺までしているのか。さっき本の冊数が少ない家はどうか、多い家はどうかというのはあるんですけど、そのところは金銭的なこともありますし、その家の関心の問題もあると思いますけど、そういうところで図書館ってすごく大事な、学校図書館もそうですし、町の図書館も大事な役割を果たすんじゃないかな。私も今、年金生活になっちゃいましたので、全ての本を自分の自費で買うということとはなかなか難しくて、リクエストしたりして図書館からいろんな本を取ってもらったりして、こりゃいいなと思ったものは自分で買うというようなやり方に変えたんですね。そういうのでとってもいい本はたくさんあるし、もちろん学校図書館も予算がつくでしょうから、いろんなものが入ってくると思うので、そこら辺のところの有効な使い方とか、家の取り組みに期待するのではなくて、じゃあ学校や町の図書館で何ができるのかというのを模索していくのも大事なんじゃないかなという気がしました、話を聞いて。それから行った時に、町の図書館さんはいい本がたくさんあるし、すぐ欲しいな、読んでみたいなと思った本を買ってくださったりして、すごく早いんですね、そういう対応が。そういうところも、もっともっと子どもたちや学校なんかと連携していけば、そこら辺のところもちょっとずつクリアできていくのかなという感じ

がしました。学校図書館の役割とかそういうのが今どうなっているのかわからないんですけど。一時期そういうのがあった時がありました。私が若いころに。図書館教育ということで。

教育長

それは司書教諭を置こうという話が出てきたころかも知れませんね。今はそれぞれの学校に資格を持った司書教諭を配置するようになっていきますから、必ず一人はおられますね。県教委も意識して人事異動させていますから。

教育委員

子どもたちがそこをどう活用しているのかなというのがちょっと気になりましたので。あ、でも突然なので、資料もないでしょうから。

事務局

わかる範囲で。まずポップの件については、中学生・高校生が自由に書けるコーナーを設けておりますし、紹介についてはしてないですけども、春先にトライワークがあった時に、職場体験で来た中学生にはポップを書いてもらったというようなことがあって、それを町民の方に紹介というのは、そこはできてないです。学校図書館との連携は、毎月小学校・中学校に配本といって、持っていつていたり、「こういう本があれば貸して」ということがあれば持っていつたりしている、そういう連携はあります。わかる範囲ですいません。

教育長

よろしいでしょうか、他には。

各教育委員

(特になし)

教育長

以上で終わりにしたいと思います。

8 閉 会

教育長

次回は10月27日水曜日、午後2時30分からということでよろしくお願いします。

以上をもちまして、第9回三朝町教育委員会定例会を閉会します。

午後3時01分